



## 今の特集

### つながり広がる 学童保育の保護者会・父母会

P10 私と保護者会のこれまでをふり返って

P15 「いっしょにつくろ～やん！」町のなかで親子が育つ、学童クラブ

P21 いまを生きる“私たちらしい学童保育”をめざして

P25 保護者会で紡いだ繋がりに支え・はげまされてのいま

P28 集い・つながるー学童保育の保護者会・父母会





## 「私と保護者会」

私の学童保育との出会いは、娘が小学校1年生で学童保育を利用することになり、保護者会に出席したことがスタートでした。いきなりでしたが保護者会長をすることになり、保護者会が楽しいものにしたと考えました。

最初に取り組んだことは夏休み親子キャンプです。周辺のキャンプ場を探し、土曜、日曜で一泊する計画です。実行委員会をつくり、夜遅くまで学童クラブで打ち合わせをしたりキャンプのプログラムをみんなで考えたりしたことを思い出します。

その後、宗像市の学童保育連合会（当時は10クラブ）に保護者会代表として関わりました。支援員の処遇改善や学童クラブのエアコン設置のために市への要望をだしたりしながら、学童保育の充実が少しずつ進んでいきました。福岡県学童保育連絡協議会にも関わるようになり、現在に至っています。

さて、保育誌5月号の特集は、「つながり広がる学童保育の保護者会・父母会」です。各地でがんばっている保護者のみなさんの投稿です。最初は「役員などになりたくない」と思っていた保護者が、一歩踏みだして関わることで保護者どうしの関係が広がった体験が語られています。編集部の投稿として『「保護者会・父母会」「連絡協議会」の役割と大切にしたいこと』では、改めて学童保育組織を支える上で、理解を深めることができる内容となっています。

日本の学童保育は、1950年代から大都市圏を中心に働く保護者が自ら子どもたちの放課後を安心・安全に生活できる場所として作りあげてきた歴史があります。この学童保育の特徴として、「全国研究集会40周年記念誌」には次の4つの点を上げています。

1. 学童保育は、必要とする保護者たちが必要に迫られ、手探りで作りあげてきた。
2. 「どんな学童だったらわが子が喜んで通い、安心して生活できるのか」と保護者と支援員が絶えず話し合いながら、学童保育を作りあげてきた。
3. いろいろな地域・学童保育との交流・発見が「要求」を育ててきた。
4. 学童保育に入所させていること、運動していることをお互いに励ましあい、支え合って確信を作りあげてきた。

私は、子どもたちの現在と未来を明るくものにするために、学童保育を通して保護者と支援員が力を合わせ「共同の子育て」を進めること、そして、学童保育の社会的使命を果たせるよう、多くの仲間と共に進められることを願っています。

「日本の学童ほいく」誌は、日本中の選抜された保護者、指導員、学童保育研究者の方々との編集会議をもとに、学童保育に特化して構成して作られた唯一の月刊誌です。

福岡県連協は、この月刊誌をぜひ、たくさんの保護者、支援員、学童保育関係者の方々に読んでいただきたいと思い、見どころ【ひらいてみちゃりい】を配信しています。

毎月、担当を変えて、それぞれの視点から、見どころを紹介しています。

是非、購読申し込みをお待ちしております。

申込先：福岡県学童保育連絡協議会  
FAX (093-662-6006)  
TEL (093-662-6000)

「日本の学童ほいく」誌 購読料  
1冊 390円/年間 4,680円